

「ぼくの わたしの 話をきいて」カードに寄せて

松村 幸子

教室で子どもたちと過ごす中で好きだった時間の一つは、放課後に何となく教室に残っている子どもたちと、とりとめもないおしゃべりをする時間だ。今は安全のための一斉下校の時間厳守でそんなのんびりした時間は取れなくなってしまっているが。一方で、自分からは決して話しかけてはこない子どもたちもいる。そんな子どもたちには、意識してこちらから話しかけないと、言葉を交わさぬまま一日が過ぎていく。

「うちの子は、聞いても学校のことを何も話してくれないんです。」という声を保護者からよく聞いた。うちの子もそうだった。今になって思うのは、子どもたちは話したいときに、話したいことだけを聞いてほしいのだ。「あとで」ではなく、「今、そのとき」に。ただ聞いてもらうだけでいい。いや、ただ聞いてもらうだけ「が」いい。ふだんのおしゃべりに助言も評論もいらぬ。つい、親は余計なことを言うけれど。

話してくれないなら、こちらが子どもたちにおしゃべりをするのだ。こうやっておしゃべりしていいんだよ、

おしゃべりすればいいんだよ、と。

話を聞く、ということは、相手の存在を受け入れることそのものだ。そうして時間を共有することこそが子育てだったのではないか。そんな時間の共有の積み重ねの上に、何かあったときには子どもたちからSOSが来る、あるいは、様子からSOSを感じ取れるのではないか。今、深い後悔と共に、ただただ忙しさに追われていた自分の子育てを思い返す。

「ぼくの わたしの 話をきいて」カードは、子どもたちのためのお助けカードだ。だが、大人たちはいつも忘れずにいたい。たとえ目の前に差し出されなくとも、子どもたちはいつも「ぼくの わたしの 話をきいて」カードを心に持っているということ。

松村幸子さん プロフィール
元小学校教諭。特別支援教育士
現在は放課後児童デイサービスに勤務
27・25・23歳の3人の息子がいる

子どもの話をきいてみよう！

自分なりの考えがあっても、伝えられないことがあります。また、ネガティブなことは話しにくいと思っているかもしれません。

2019年11月「小金井市子どもの権利に関する条例」制定10周年記念・児童館フェスティバルが開催され、私たちは、子ども向けに「ぼくの わたしの 話をきいて」カードを作り、配布しました。

このカードを、親子の、おとなと子どものコミュニケーションツールとしてご活用ください。たとえうまく話せなくてもSOSのサインになるかもしれません。

何か話したいこと
困ったことがあったらこのカードをみせてね。

どんなことでもいいの？

だいじょうぶだよ。いつもあなたの味方だよ



KOKOぶれす vol.38
KOGANE I
子育て相談特集 小中学生編

内容

- * 専門家からのメッセージ
- * みんなの悩み・みんなのもやもや
- * 小金井市の相談窓口
- * 相談した方の体験談
- * 相談の極意
- * 個性って（私は私・僕は僕）

●企画・発行：KOKOぶらねっと

塚田昭子／福島真理／安部富代／阿部寛子／千葉恵／山岸久美子／山崎美奈子

●タイトルデザイン：関川真美子

●イラスト：片平美乃里

●発行日：2020年9月24日

メール kokop510@yahoo.co.jp

ホームページ <https://kokop5jimdo.com/>

KOKOぶろぐ <https://ameblo.jp/kokoplanet/>

Facebook KOKOぶらねっと

※禁無断転載コピー◎KOKOぶらねっと

子どもから話をきいて、私たちおとなも悩んだり困ったりすることがあります。そんな時は一人で抱えず、相談してみませんか？

※「ぼくの わたしの 話をきいて」カード、KOKOぶれすバックナンバーが必要な方は、メールでご連絡ください。KOKOぶれすは、KOKOぶらねっとのHPでもご覧になれます。